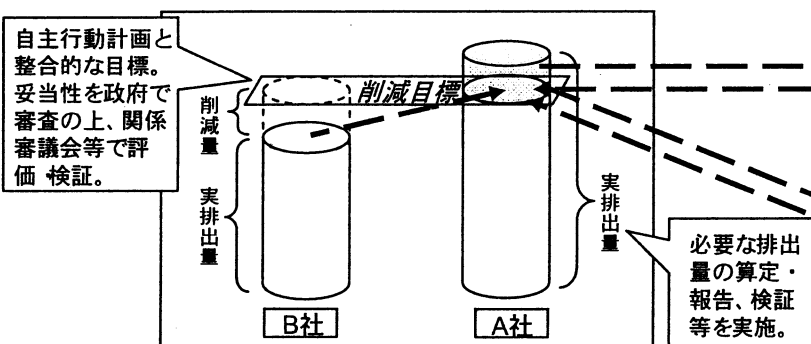


国内統合市場

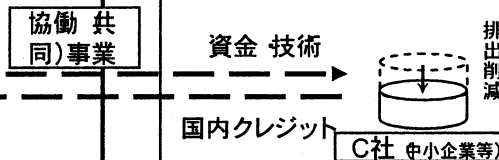
① 試行排出量取引スキーム

- 企業が自主削減目標を設定、その達成を目指して排出削減を進める。目標達成のためには、排出枠・クレジットが取引可能。
- 排出総量目標、原単位目標など様々なオプションが選択可能であり、多くの企業の参加を得て日本型モデルを検討。



② 国内クレジット

大企業等が技術・資金等を提供して中小企業等が行った排出抑制の取組を認証・国内クレジットする制度。



③ 京都クレジット

〔海外における温室効果ガス削減分〕

自主行動計画への反映等を通じて京都議定書目標達成に貢献

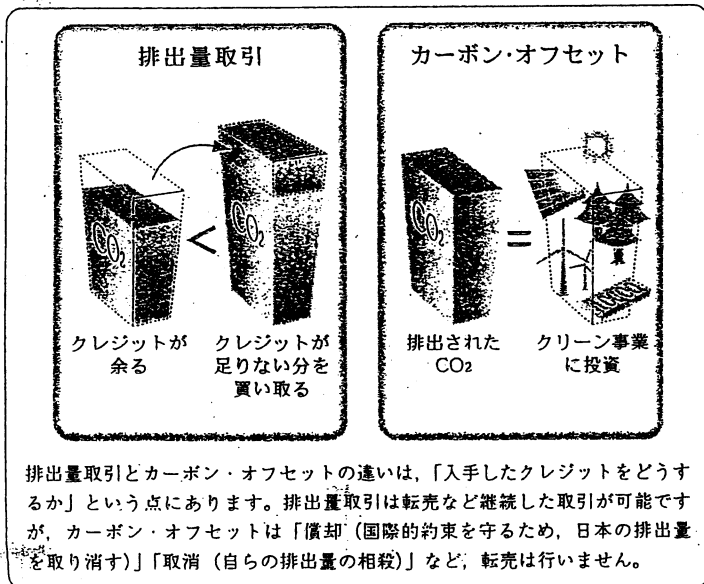
制度のポイント

- ・ 大企業、中小企業問わず、あらゆる業種の企業等様々な主体が、**実効性のある排出削減**を行うための様々なメニューを用意。
- ・ **国内統合市場**として、様々な排出枠・クレジットが目標達成のために活用可能とする。
- ・ 来年初頭(1~3月)及び2009年秋頃にフォローアップを行う。

オフセットすることと排出量取引の一番の違いは、入手したクレジットの取り扱い方法にあります。前者は費用を払って入手した以上、他人に使われないように「しまいこむ」イメージですが、後者は継続した取引が可能です。

本書におけるカーボン・オフセットは、投機目的ではなく、自分達で排出したCO₂を埋め合わせるために追加的費用を払い、入手した「クレジット」は転売することなく「償却」もしくは「取り消し」することを前提としています。

オフセット・プログラムの中には、個人に証書やVERと呼ばれる排出削減クレジットが手渡されるものがありますが、こうした証書やVERは、転売できない場合がほとんどです（一部特例あり）。なお、京都クレジットを所有できるのは、「国別登録簿」に口座を持つ法人に限定されているため、個人では現時点では取引に参加できないのが実情です（信託に対する投資を行って経済的取引をするのは可能です）。



参加しやすいオフセット方法を選ぶ



次に排出したCO₂をどのように「出なかったことにする」という「始末」の方法を考えてみましょう。

オフセット、つまり「埋め合わせ」するにはいくつか選択肢があります。繰り返しになりますが、オフセットとは、「自分が出してしまったものを出さなかったことにするための費用を負担する」こと、です。出さなかったことにするためには、普通なら温室効果ガスを排出している行為に対して、排出量を減らすためにかかる費用を負担したり技術を提供したりすることです。

